

一乗谷に舞い降りた

『越前の楊貴妃』

小少将



越前朝倉氏最後の当主、朝倉義景。彼はその生涯で2人の正室と1人の側室をもちました。中でも彼が寵愛し、義景自害の際もともにいたのが小少将(小将ともいいます)です。



朝倉義景肖像
(心月寺蔵)

小少将は、義景の家臣、斎藤兵部少輔の娘であり、生年などはわかりません。

なかったのも小少将が原因だったのではないかとさえいわれています。

義景の寵愛を受けていた小少将は次第に国中の権力を強めていきましたが、朝倉氏とともに衰退の道を歩んでいくこととなります。天正元(1573)年頃より織田信長の越前攻めが始まり、一乗谷が焼き討ちにあうと、義景は小少将と愛王丸、義景の母・光徳院を連れて大野郡へ逃げ延びます。しかし、朝倉景鏡の裏切りにあい義景は自害。小少将らは丹羽長秀の軍勢に捕らえられ、信長のもとへ連行されました。白昼、ありあわせのヒノキ笠姿で府中(現在の越前市)の街を通る彼女らの姿をみた人々は、いたく嘆いたといわれています。

彼女は、南条今庄の里(南条郡南越前町)で殺されたと伝わっています。しかし、『朝倉始末記』には光徳院と愛王丸が殺されたことは明記されていますが、実は小少将が殺されたことは書かれていません。また、岐阜県の願興寺に「義景の妾が寺に落ち延び、遺児を出産した」という言い伝えがあります。これが小少将であったかどうかはわかりませんが、もしかすると、男性の理性を狂わせるほどの美貌を持ち合わせていた小少将は誰かに助けられ逃げ延

ていません。永禄11(1568)年、義景最初の嫡男・阿君丸が死亡。一門内の争いなどもあり、義景は悲しみに暮れます。また、世子がいないことを家臣らが心配し、悲しみを和らげるためにも美しい側室が必要だと考え、側室に推薦されたのが小少将でした。

小少将は、人の目をひく美しい容貌の持ち主であったことに加え、人の心をつかむ話力も持っている人柄だといわれています。義景は小少将に館を与え、小少将を寵愛。元亀元(1570)年、小少将は、待望の男子、愛王丸を生みます。以降、義景はますます小少将と愛王丸を溺愛するようになり、將軍足利義昭から上洛の命令があった際に兵を動かさ

びたのかもしれない。

かつての唐の楊貴妃も、美麗で才知に優れていたことで皇帝の寵愛を一身に受け、最後には一族もろとも殺害されています。まさに『越前の楊貴妃』ともいえる小少将。彼女もまた時代に翻弄された悲劇のヒロインなのです。

関連史料・ゆかりの地

諏訪館跡庭園



一乗谷朝倉氏遺跡の庭園の中でも壮麗な諏訪館跡庭園。朝倉義景が小少将に与えたという館がこの諏訪館でした。その優麗さから、小少将を受けた寵愛の大きさを感ぜられます。

【住所】福井市城戸内町(JR福井駅から浄教寺行き京福バス「武家屋敷前」下車3分)